

# 北陸情報通信協議会定期総会 特別講演「サステナブルからリジェネラティブへ」を開催 --- 地域におけるICT活用の新しい方向性 ---

北陸情報通信協議会（会長 金井 豊 北陸経済連合会会長）は、総務省北陸総合通信局（局長 小津 敦）との共催で、令和5年4月24日（月）に「北陸情報通信協議会定期総会特別講演」を金沢東急ホテルで開催しました。

本特別講演は、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科の三友 仁志 教授が、「サステナブルからリジェネラティブへ--- 地域におけるICT活用の新しい方向性 ---」との演題で講演し、北陸情報通信協議会会員を中心に110人が参加しました。

## 北陸情報通信協議会 令和5年度定期総会 特別講演

日時: 令和5年4月24日(月) 16:00~17:00  
場所: 金沢東急ホテル 5階ホールルーム

- 演題: 「サステナブルからリジェネラティブへ  
--- 地域におけるICT活用の新しい方向性 ---」
- 講師: 三友 仁志 (みとも ひとし) 氏  
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授 博士 (工学)

### 【講演・概要】

サステナブルの次の概念として、リジェネラティブが目ざされている。地域社会の観点では、サステナブルは、従前の資源浪費型社会を脱却し、社会における問題、不公平を減らすという発想であり、他方、リジェネラティブは、さらにより良く全体を改善するという発想といえる。

地域社会におけるICTの利活用において、「地域課題の解決」が目標として掲げられるが、これはマイナスをゼロにする発想といえる。次の段階として、「地域の新たな価値の創生」を目指して、断片的なモデルから全体整合的モデルへの移行を目指すことが、地域社会が行うべき重要な飛躍であり、その点にこそICTを活用することの意義がある。

本講演では、講演者が総務省等において参加している通信および放送関連諸会議において展開されている議論を参照しながら、ICTがリジェネラティブな地域社会の実現をめざすための最も有効な手段であることを述べる。

### 【講師・略歴】

- 公益財団法人情報通信学会会長、International Telecommunications Society (ITS) 副会長、早稲田大学デジタル・ソサエティ研究所長、専門分野は、デジタル・エコノミー、デジタル・ソサエティ論。
- 総務省情報通信行政・郵政行政審議会委員、情報通信審議会専門委員。
- 総務省「デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会」座長、「デジタル変革時代の電波政策懇談会」座長、「ユニバーサルサービス政策委員会」委員長、「総合政策委員会」主査代理ほか、多くの委員会、検討会、研究会の構成員を務める。



- 主催: 総務省北陸総合通信局、北陸情報通信協議会
- 後援: 北陸経済連合会



三友 仁志 教授による特別講演の様子

講演で三友氏は、まず従来の持続可能性の考え方が、環境の損害を減らすことを目的とするのに対し、「リジェネラティブ」のアプローチは、生態系を活性化し、環境を再生させることを目指すことであるとし、そしてそれは、持続可能な社会の実現に向けて重要な考え方の一つであると説明しました。

また、「地域課題の解決」という地域社会におけるICTの利活用における従来の目標から次の段階として、「地域の新たな価値の創生」を目指すべきであることを強調しました。

さらに、「地域の新たな価値の創生」のためには、断片的なモデルから全体整合的モデルへの移行を目指し、「競合」から「協合」することで、「地域の健全性をデザインする全体モデルを構築することが重要」としました。

三友氏が総務省等において参加している通信及び放送関連諸会議において展開されている議論についても触れながら、講演を締めくくりました。

本特別講演を通じて、地域が抱える課題に対して、ICTを利活用する意義について理解を深めることができました。